

千里の道

創刊号 No.1

令和2年8月31日発行

発行 医療法人協和会
千里中央病院

発行責任者 平塚 正弘
連絡先 電話 06(6834)1100



安心安全な質の高い医療を提供してまいります。

千里中央病院は、急性期医療を終えた患者の皆さまの回復期医療および慢性期医療を担う病院として平成20年10月に開院しました。

「回復期リハビリテーション病棟」は、脳血管疾患又は大腿骨頸部骨折等の患者の方が対象で、リハビリテーションを集中的に行います。「緩和ケア病棟」では、がんによって生じる身体や心の痛みを和らげるケアを行います。「一般障害者病棟」は、重度の障害者・難病患者の方が安心して長期療養を受けることができる病棟です。

千里中央病院は、地域の皆さまのご期待に添えるよう、多職種によるチーム医療を推進し、あらゆる面で安心安全な質の高い医療を提供してまいります。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



病院長 平塚 正弘

千里中央病院の看護をご紹介します。

広報誌で当院の事を知っていただく機会を得まして、看護部が日々のケアの中で大切にしていることについて、一部ご紹介させていただきます。

最優先は、患者さんの様々な痛みを緩和できるように、医師、薬剤師、理学療法士、看護補助者と多くの専門職と日常的に話し合い最善を尽くすようにしています。次に合併症の予防です。入院患者さんの中には皮膚の弱い方が多いので、褥創予防や擦り傷、表皮剥離などスキントラブル防止が重要と考えています。特に移動による摩擦を少なくするため、ベッドのままの移動を基本として、入浴時や検査時など乗換えの回数を減らすようにしています。また、肺合併症予防のために口腔ケアにも力を入れています。

環境としましては、患者さん、ご家族の方々に季節感を感じていただけるように各病棟で、様々な取り組みを行い、来院された方々からは「病棟の壁の様々なデコレーションは病院っぽさがなくて良い」等の感想を頂いています。

これからも患者さんにとって、安全で快適に入院生活が送れるように職員一同で務めてまいります。



看護部長 北之園 真由美

千里中央病院 広報誌「千里の道」創刊に寄せて

地域の皆様に愛され信頼される病院を目指します。

広報誌の創刊に際し地域の皆様にご挨拶申し上げます。

当院は病院名の通り「千里」中央で回復期、慢性期医療を提供し、12年目を迎える事が出来ました。これも偏に連携頂いている病院、開業医の皆様、介護施設、事業所の皆様、そして地域の皆様のお力添えがあればこそだと厚く御礼申し上げます。

開院から長い様で短い「道」のりの中で、もう少し早い時期に広報誌をお配りして地域交流をすべきところ遅くなってしまいましたが、今年から「一歩ずつ」確実に進めてまいりたいと思っております。

皆様におかれましては新型コロナウイルス感染で大変な状況だと思っておりますが、今後ともご支援賜ります様宜しくよろしくお願い申し上げます。



事務長 下垣 雅司

皆様のお役に立つ情報を発信してまいります。

はじめまして、今年度から広報誌を発刊することになりました、千里中央病院の広報委員長の山田と申します。

当院の広報委員会は医師をはじめ各職種から選出されたメンバーから構成しています。この広報誌はより多くの方に当院のことを知って頂くために様々な話題を提供していければと思っております。

広報委員会では様々な情報提供を行ってまいります。一方通行の話題提供にはならないよう、患者様やご家族、一般の方々からの御意見も大切にしていきたいと思っております。

至らない点もあるかと思いますが、解りやすく親しみのある広報誌を目指していきたいと思っております。これからもどうぞ宜しくお願い致します。



広報委員長 山田 和也

■ 病院概要

診療科／内科、神経内科、外科、整形外科、
脳神経外科、リハビリテーション科

病床数／400床

- 一般障害者施設：225床
- 療養病棟：50床
- 回復期リハビリテーション病棟：100床
- 緩和ケア病棟：25床

診療時間／午前9:00～12:00

休診日／日・祝日

広報誌名「千里の道」の命名理由

千里の道も一歩からの言葉のように、地域に住まう皆様が健やかに過ごせるには、時間をかけて取り組む必要があるかもしれません。

ですが、私たちは、確実に出来ることを一歩ずつ行うようにすることが大切であると考えています。この広報誌が皆様の健康増進の一役になることを願って、「千里の道」と名付けました。

これからも、どうぞ宜しくお願い致します。



看護部紹介

今回は **認知症看護認定看護師** より

「認知症の患者さんが入院した時に感じていること」をお伝えします。

認知症になると入院という環境の変化によって混乱してしまうことが多くあります。例えば、記憶障害（物忘れ）によって入院の必要性について説明を受けても忘れてしまい、今自分がどうしてその場にいないといけないのか戸惑ってしまいます。そこへ知らない場所と知らない人、自分の居場所のなさという多重の課題が同時に押し寄せ、処理しきれないまま時間が経過し、**混乱へと繋がってしまう**のです。また、認知症と診断されていなくても高齢であったり、疾患の影響から**認知症と同じような症状が出現する場合があります**。そのまま放っておくとどんどん症状は悪化し、本当に認知症に進行してしまう場合があります。

そういった認知症に似た症状にも早期から認知症ケアチームが介入することで症状の予防、軽減をはかることができます。認知症の人への環境の変化による課題をひとつでも少なくし、安心して入院生活が送れるように、多職種からなる認知症ケアチームが病棟スタッフとともに入院生活をサポートします。



★多彩の資格をもち、バイタリティに富んだ看護師・看護補助職が現場で活躍しています!!★

緩和ケア認定看護師

患者さんと家族が「笑顔」で過ごせるように、体と心の苦痛を和らげるようこの資格を活かしていきたいと思えます。



がん性疼痛看護認定看護師

病棟及び訪問看護師、看護学生を対象にがん看護の指導を行い、患者さんやご家族の苦痛を緩和できるように取り組んでいます。



特定行為研修修了者

患者さんの変化をいち早くキャッチし、早期に治療開始できるように医師と連携しています。



日本摂食嚥下
リハビリテーション学会認定士

皆さんに食事を安全に楽しく食べてもらえたらと思っ資格を取得しました。



福祉住環境
コーディネーター2級

退院時の住環境について、患者さんやご家族と一緒に考えています。



排泄自立指導研修修了者

スタッフの排泄管理に関する知識を高め、個別的な看護ケアができるよう指導したい。



快適自己導尿指導士

自己導尿の必要な方に正しく指導できるようにと思っ資格を取得しました。



手話奉仕員養成講座
基礎課程修了者

ろう者の方が入院された時に対応できるようにしています。



ハンドケアセラピスト

会話しながらマッサージを行い患者さんが安心・安楽に過ごしてもらえよう活かしています。



その他の資格

- 日本漢字能力検定2級・3級
- マナー検定初級
- フェミニストカウンセラー
- 衛生管理者
- 実用数学技能検定準2級
- 日本書道初等科師範免許
- 秘書検定2級
- 排尿機能検査士
- 英語検定3級・2級・準1級
- 薬膳コーディネーター
- 高等学校教諭一種
- 産業カウンセラー
- 販売アドバイザー
- ファッション販売能力検定3級
- 建設業経理事務士3級
- オムツフィッター3級
- TOEIC730
- 色彩検定2級
- 社会教育主事
- 珠算能力検定1級
- 馬場馬術2級
- リンパセラピスト
- アロマセラピー検定1級
- アンガーマネジメントファシリテーター
- メンタル心理士
- マナーアドバイザー
- 未生流総家師範
- カラーセラピスト
- 遺体感染管理
- リフレクソロジスト
- 日商簿記検定2級

などなど

リハビリテーションという **言葉** について

病院などでは、リハビリテーションのことを「リハビリ」と訳して使われます。リハビリと聞くと「運動すること」や「体をよくすること」と思われている方が多いでしょうか？正確には、リハビリ＝運動ではないんです。リハビリテーションは英語で「rehabilitation」と書かれます。これは、ラテン語のRe（再び）+Habilis（適した状態になる）という言葉で構成されています。



言葉の意味を考えると、「自分は再びどういう生活をしたいか？」と訳せます。つまり、リハビリテーションとは、「どういう生活を目指すか」という意味であり、「どんな生活がしたいのか？」と目標を持つことが重要になります。運動、道具や動作の工夫・言葉や飲み込みの練習はその為に必要な手段と言えます。



当院には、理学療法士・作業療法士・言語聴覚療法士の3職種が入院の方・地域の方を支援するために日々努力を続けています。また、生活を支援するため、医師・看護師・看護補助手・薬剤師・管理栄養士・社会福祉士など様々な職種でチームを組んでいます。

入院せず、いつまでも住み慣れたところで元気に過ごして頂くことが一番ですが、もしリハビリテーションを受ける際には、「自分はこれからも〇〇みたいな生活を続けたい！」と具体的な目標をもって、運動や動作の練習を行って頂ければと思います。